

伊藤 謙一 議員

市内火災に対して

市の対応は

問 昨年、市内で多くの火災が起きてしまった。多くの方々に警防活動等ご尽力をいただいているが、残念ながら今年も既に火災が起こっている。火災は一瞬で市民の生命と財産を奪ってしまうことから、予防の重要性は言うまでもないが、市は今後、火災発生件数をどのようにゼロに近づけていくのか。また、どのようにに予防活動を行うのか。

答 昨年は、近隣の磐田市、掛川市、森町と比べて、人口当たりの比率で袋井市の火災の発生が多い年となった。また、それに出動した消防職員・団員の総数は1万1682人となり、多くの方に消防活動にご協力いただいている。通常の火災予防運動に合わせた防火啓発活動、高齢世帯への防火訪問、住宅用火災警報器の設置PR等を行い、今後も消防本部・消防団が連携して予防消防に努めていきたい。



消防団の放水訓練の様子

問 消防団員には日々活動いただいておりますが、そのために、仕事や家族との時間を犠牲にしている場合も少なくない。支える家族や雇用関係にある企業への、きめ細やかな対応を求めたい。

答 団員の負担軽減を図りながら訓練を行うお知らせや、勤務する企業に対しては、年度初めに出動協力依頼を行っている。また、火災の出動が多ければ、年度途中でも協力依頼を検討したい。

村井 勝彦 議員

国本廃家電の

取り組み状況は

問 今後、破碎ガラス等の処理をどのように進めるか。

答 現在、さまざまな処理手法を模索していく中で、解決に導いていきたいと考えている。また、処理の時期については、検討状況を踏まえ、早期解決を目指し、取り組んでいきたい。

問 地域住民に対して、環境調査結果や処分計画などの説明は。

答 破碎ガラス等の置場となっている周辺の土壌や井戸水について、これまで年2回の調査を行い、その結果を地域に報告している。今後においても定期的な環境調査を行い、地域の皆さまにお知らせするとともに、処分等の計画についても説明し、理解を求めていきたい。



国本地区の廃家電の状況

地域要望の取り扱いは

問 地域要望に関する今後の対応方針は。

答 限られた予算の中で地域の要望にできるだけだけ応えられるよう、危険箇所は速やかに対応することや、現場の状況を地域と十分協議する中で、地域バランスや事業に偏りが起きないように優先順位づけの基準を明確にしていきたい。